



# お元気ですか

平成30年6月

## 知っておきたい！大腸がん！

### ☆発症のリスク

#### 年 齢

大腸がんは50歳を過ぎた頃から急増し、年を重ねるごとにリスクが高くなります。また、近年では40歳代も増加する傾向があります。

#### 既往歴

卵巣・子宮・乳房のがんになったことがある人もリスクが高くなります。大腸ポリープを持っているかたもがん化する可能性があるため、要注意です。

#### 遺 伝

大腸がん全体の5%程度は、親や兄弟などの近親者の中に大腸がんにかかったことのある人がいる場合、遺伝性の大腸がんになるケースもあります。

### ☆気をつけたい「こんな症状」

がんがまだ小さい大腸がんの初期では、ほぼ便通に影響しないことから、自覚できる症状はありません。ある程度がんが大きくなり、大腸の内腔が狭くなって便が通りにくくなると、以下のようなさまざまな症状が現れるようになります。

便の違和感	<ul style="list-style-type: none"> <li>・便に血液（鮮血もしくは黒色）が混ざる</li> <li>・下痢と便秘を繰り返す</li> <li>・残便感や排便の際、痛みを伴う</li> </ul>
腹部の違和感	<ul style="list-style-type: none"> <li>・腹痛</li> <li>・腹部膨満感</li> <li>・お腹が鳴る</li> </ul>
その他の違和感	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原因不明で痩せる</li> <li>・貧血や疲労感がある</li> <li>・吐き気、嘔吐が頻繁にある</li> </ul>



### ☆唯一の予防は「検査」です

早く見つければほぼ完全に治せるものの、早期には自覚症状がほとんどないので、大腸がんでは、定期的な検診・検査が非常に重要となります。一般的な健康診断等で広く行われている大腸がん検査には「便潜血検査」があります。

ただし、この検査で異常がない場合でも、必ずしもがんがないとはいえないのが実情です。



40歳以降のかたは毎年大腸がん検診を受けて、早期発見に努めましょう。

